

村名をも田井村とは稱したるならん。諸國の邑名を考ふるに、櫻井村に櫻井といふ古井あり。松井村には松井と呼べる古池あり。その外井池によりて地名と成れる多し。殊に田井村の地には、彼の阿彌陀清水・けち清水などの靈泉も多く、いにしへより名高き田井どもありしゆゑに、邑名をば田井村と呼び來れるにやといふ古傳説のあるも、さもあるなるべくおぼゆ。故に今先達の舊説共をも引證して、邑名の來歴とはなしぬ。句空の草庵集に田井を過るとて。

青蛙鳴や水田のふかみどり

句 空

○田井の芹田

田井村は、昔は芹田ありて、田井の芹と稱し、此の村の名産とせしかど、今は悉く耕田となし、芹田は絶えたりけん、田井芹の名産なるよしを知る者なしとぞ。元祿三年に撰びたる俳人句空の草庵集に、田井芹の句を載せたり。

年とりや湯涌の蕪田井の芹

句 空

按ずるに、改作所舊記に載せたる、延寶六年七月里長より諸村名産の品々取調上申書に、湯涌村に作るかぶらは長く、大根のやうにて風味も能く、湯涌のかぶらと唱へ賞翫

仕。と載せたり。田井芹の事は所見なけれど、湯涌の蕪とひとしく賞翫せし故に、句空が句にも對句になしたるなるべし。按ずるに、産物も時世に依りて變じたりけん。今は芹は安江の産を名物とし、田井村は、田井茄とて茄子を名産とす。大なる長茄也。丸茄子の種を蒔ても長茄子に變ずといへり。

金澤古蹟志卷三十

城北田町筋

○寶幢寺坂

今八坂とも呼べり。昔此の坂路の高に寶幢寺あり。故に寶幢寺坂と呼べり。按ずるに、寶幢寺は延寶の金澤圖を見るに、八坂松山寺の高にて、奥村氏下邸の後、地にあり。元祿九年奥村氏今の兼六園の地内なる邸地用地となるに依りて、石引町入口なる右下邸の地へ移轉を命ぜられし後までも、寶幢寺此の地にありしかど、奥村伊豫居邸の近地なりしゆゑ、伊豫殿坂とも呼びたりけん。改作所舊記に載せたる元祿七年三月の覺書に、如左見たり。

覺書

一、來月三日より五日まで、於天徳院御法事有之に付、朔日より五日まで、石引町筋より伊豫殿下之坂并安房殿坂、此兩道筋、御郡方之牛馬、惣而百姓男女とも往來仕間

敷候。爲見物罷出候儀勿論之事。

一、御法事之内石川・加賀郡十村手代共之内、五・六人程宛出し、石引町筋所々、伊豫殿坂・安房殿坂、此兩道筋、一人・二人宛差置、御郡方牛馬牽通り候ものは勿論、百姓共相通り不申様に縮可仕事。自餘略之。

以上

三月廿四日

右覺書を以御郡所より申渡。とあり。按ずるに、安房殿坂は今いふ廣坂なり。此の坂は、天保年中までも世人安房殿坂と呼べり。寶幢寺坂を伊豫殿坂と呼びたりしは、早く其の名絶えたりけん。此の後は皆寶幢寺坂とのみありて、伊豫殿坂の名所見なし。さて此の坂路そのかみいと狭き道路なりしかど、竹澤殿建築に付き、文政三年五月より通行を指止められ、此の時寶幢寺坂と修理谷坂との兩坂路をば取廣め造らしめられ、同年九月に落成して、諸人の通行始りたるよし見たり。此の時より今の如く成りたりといへり。

○寶幢寺舊寺地